

BSCフォローアップシート（年度末評価用）

病院(所属)名:小児保健医療センター

区分	戦略的目標	BSCの当初目標設定内容			年度末 進捗状況				評価・今後の対応	
		業績評価指標	数値目標	主なアクションプラン	アクションプラン取組の有無	アクションプラン実績	数値目標実績	4段階評価		
患者の視点	患者満足度の向上	今後も当院に通いたい人の割合	外来85% 入院85%	患者アンケート調査	◎	昨年度の調査結果を踏まえ質問項目等を検討し10月にアンケート調査を実施した。また、調査の精度を上げるためアンケート実施に関する館内放送やポスター掲示に加え、診察待ち患者への積極的な協力依頼など回収率および回収数の向上に取り組んだ。	外来94% 入院93%	A+	1. 今後も来院したい割合は外来・入院ともに目標値を上回っているものの、診察待ち時間、待ち時間での気遣い、交通・駐車場については比較的低い評価となっている。 2. 昨年度低評価となっていた清掃に関する項目については契約業者および仕様変更等により大幅に向上した。	
	発達障害支援強化	閉鎖病棟開設調査研究着手	調査、検討	閉鎖病棟の情報収集 年間予想患者数調査	△	将来構想の中で検討中	-	C	今後も将来構想の中で検討を行っていく。	
		感覚統合療法(SI)年間延べ患者数	800人	発達障害患者への感覚統合療法を推進するため、作業療法士の資格取得を推進する	○	感覚統合の研修会を開催した。	771人	B	目標数には至らなかったものの概ね達成することができた。評価指標の見直しにより今後は地域療育教室への派遣回数を指標とする。	
	リハビリの充実	リハビリ入院患者数	35人	入院リハビリの体制を強化するため、理学療法士の増員を図る。	○	リハビリ専任医が研修へ参加した。 リハビリ入院患者の増加のため各科との連携改善に努めた。	18人	C	1. リハビリ担当医師およびスタッフ復帰により体制充実。 2. 医師、リハスタッフが一體となり、リハビリ入院の推進に取り組む。	
		外来リハビリ患者数	20,500人		○		14,782人	B		
	診療科の充実	眼科医レジデント1名獲得	1名確保	眼科医師との情報交換、行程の具体化	○	レジデント獲得に向け派遣依頼を進めてきたが確保には至らなかった。	-	C	引き続き粘り強い要請活動を続けていく。	
		新たな医療サービス	2件	将来構想WGによる将来必要な診療科の検討	△	将来構想の中で検討中	-	C	現在、将来構想の中で検討を行っている。	
	慢性疾患患者の救急体制強化	救急受け入れ患者数(外来・入院)	外:370人 入:180人	救急依頼から診療までの業務改善	○	当直医師1名により、時間外における患者(初診を除く)の受入を行っている。必要時には、オンコールによるサポート体制を敷いている。	外:351人 入:174人	B	1. 現在のところ特に問題なく業務が行われている。 2. 今後、改善点があればその都度対応していく。	
	財務の視点	病床利用率の向上	病床利用率	75.0%	病床利用率のモニタリング	◎	定例会議で各病棟別、各科別の利用状況がわかる資料を配付し分析を行っている。また、随時最新の病床利用率を職員に情報提供している。	69.6%	B+	1. 現在、計画の75%を下回る利用率となっているため様々な検討を行っている。 2. 今後とも利用状況の把握に努め、リハビリ入院の推進など適切に対応する。
		財務の安定	レセプト返戻数(率)	370件	診療報酬請求説明会の定期開催	◎	定期的な会議において、診療報酬を減点された内容、理由等がわかる資料を配付し、復点対策や、今後の減点防止に取り組んでいる。あわせてソフトウェアによるチェックを行っている。	294件	A+	1. チェック体制強化により減点件数は昨年度から26%減少したが目標値には至らなかった。 2. 今後さらに減点数の減少に向け、院内への啓発を強化していく。
レセプト減点数(率)			350件	◎		582件		C		
内部プロセスの視点	病棟機能の充実	術後回復室の試行	シュミレーション	現状調査および分析、対応検討	△	将来構想の中で検討中	-	C	今後も将来構想の中で検討を行っていく。	
		小児NPPVセンターの開設	施設基準取得成功							
		療養環境整備策実施数	5件	療養環境改善案の定期募集	○	職員からの改善提案および患者からの要望を精査し対応した。	3件	B	1. 目標件数には至らなかったものの有用な提案があり採用することとした。 2. 予算の範囲内において提案や要望に積極的に対応する。	
	在宅医療・ケア支援の充実	年間受入数	2000人	レスパイト受付窓口の設置	○	患者家族からの要請に対して積極的に対応している。	3,374人	A	1. 要望が多いときには病棟を超えて調整するなど予定枠以上に対応している。 2. 今後ともできるかぎり利用者の要望に対応していく。	
		訪問看護ステーションとの連携ケース数	30件	小児看護の技術指導	◎	引き続き、入院や外来で訪問看護を利用されていたり、新たに希望された患者家族に対し、紹介・連携を行っていった。また、実際に来院してもらっての情報連携(ケースカンファレンス)や技術指導連携ケースは20件であった。	51件 (新規利用者件数10件)	A+	今後も引き続き、患者家族が安心して在宅生活を送れるための連携を行っていく。特に医療依存度が変化したり、新たな機器を導入される等技術面での指導が必要なケースについては、積極的にカンファレンスを実施するとともに、認定看護師や臨床工学技士とも連携し安心安全な在宅への移行をめざして調整していく。	
	小児から成人へのシームレスな医療サービス提供支援	成人対象医療機関への紹介成功患者数	15人	県立リハセンターとの連携システム構築	○	県立リハビリセンターの医師に一定期間、リハビリテーション科の外来診療を行っていただいた。湖南圏域以外の連携会議へ出席した。	10人	B	1. 県立リハビリセンター職員との交流を図りコミュニケーションを高める。 2. さらに全県的に在宅療養支援を進めていく。	
18歳以上の患者が地域の医療機関へ診療が受けられる体制を整える				○						患者家族の意向に沿って、地域の成人も対象としている医療機関への連携を実施した。また、地域の自立支援協議会や湖南圏域のネットワーク会議、県の在宅関連会議にも積極的に参加し、重度心身障害の方も受け取ってもらえるような支援を訴えていった。県内の病院や診療所922か所の、重度心身障害児・者の受け入れについての実態調査を、県と協働で実施した。

BSCフォローアップシート（年度末評価用）

病院(所属)名:小児保健医療センター

区分	戦略的目標	BSCの当初目標設定内容			年度末 進捗状況				評価・今後の対応
		業績評価指標	数値目標	主なアクションプラン	アクションプラン 取組の有無	アクションプラン実績	数値目標 実績	4段階評価	
内部 プロセス の視点	地域連携の 強化	紹介患者数・率	2,900人	開放病床設置研究開始	△	開放病床設置について将来構想の中で検討中	2,029人	B-	1. 開放病床設置について引き続き将来構想の中で検討していく。 2. 今後、障害児の在宅療養推進において地域の診療所への支援方法を検討していく。
		逆紹介患者数	1,500人	広報誌への連携病院紹介記事掲載			1,657人		
	医療安全の 徹底	レベル3b以上の事故数	0件	同一インシデントの発生削減強化	◎	毎月、医療安全管理委員会を開催し、医療事故の分析を実施している。ワーキンググループによる現地確認を行い、事故原因の解明と発生予防に努めている。	1件	B+	1. 医療安全管理委員会やワーキンググループによる調査は予定どおり実施できている。 2. 今後とも、事故原因の解明と医療事故の発生防止に努める。
	職員満足度 の向上	今後も当院で働きたいと 答える職員の率	85%	職員アンケート調査結果の反映	○	7月に病院事業庁による職員アンケート調査の実施に協力するとともに、調査結果を院内の運営会議で報告した。	64%	B	1. 3病院のうち中間の評価点であったが、前回より3%率が上昇した。 2. 例年、古い施設の更新や職員の増員に対する要望が多いが、対応は困難な状況にある。
	活発な広報 活動	HPの情報更新頻度	1か月に 2回	広報委員会の活動強化、職員の意識啓発、 広報のポリシー検討、広報媒体の役割分担	○	県庁サーバー(CMS)への移管によりによりHP更新作業の簡素化、セキュリティ向上、滋賀 県HPとのリンクなど運用管理業務の向上に寄与した。	1か月に 2回	A	1. 計画どおり情報誌が発行することができた。 2. 今後とも目標回数を目指し発行を継続する。
		年間発行数	年4回	広報委員会の活動強化、職員の意識啓発、 広報のポリシー検討、広報媒体の役割分担	○	広報誌「チャム&リリ」第17号(7月)、第18号(1月)、第19号(3月)を発行した。また、年報 は11月に発行済。	4回	A	
学習と 成長の 視点	教育の充実	レジデント数	9人	新たなカリキュラム策定	○	短期受入プログラムの開発	9人	A	今後多様な研修カリキュラム等により新規レジデントの獲得に取り組む。
		資格取得者数(看護師)	4人	資格取得費用援助 資格取得職員の有効配置 資格取得へのモチベーション作り	○	医師、看護師、コメディカル等が専門資格を取得する際の経費を病院が負担することによ り、各種資格取得を支援している。現在、専門医、認定看護師等の資格取得に取り組んで いる。	7人	A	1. 計画どおり進んでいる。 2. 今後とも研究活動を支援していく。
		資格取得数(医師)	32人		○		28人	B	
		専門資格取得数(コメディカル)	リハ科 10人		○		11人	A	
		専門研修派遣者数	120人	適切な研修の選定	◎	各部署へ関係機関が実施する院外研修を周知し、職員が積極的に参加するよう努めた。	229人	A+	1. 取り組みの結果、目標数を大幅に上回った。 2. 今後とも研究活動を支援していく。
	研究活動の 活性	年間学会発表数	75回	発表費用援助	○	学会発表数 診療局97回、看護部14回、保健指導部2回、療育部1回	123回	A	今後とも研究活動を支援する。
論文発表数		25本	○		論文発表数 診療局40本、看護部2本	44本	A	今後とも研究活動を支援する。	

(注)事故件数はレベル3b(濃厚な処置や治療を要した場合)以上のものとする。事故とは、過誤・過失の有無にかかわらず医療の全過程で発生する全ての人身事故をいい、これには患者自身の不注意による転倒等も含まれる。